

今回の児童・生徒のコーナーでは、光中のお友達のお友達の作品を紹介します。



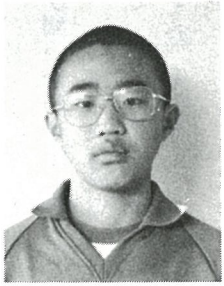

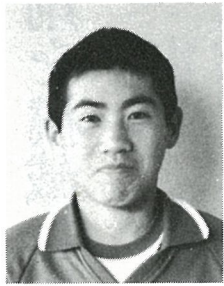

2年
越川由美子

雪

見上げると、
はてしなく上の方から
はてしなく多くの雪が。
パラパラ、サラサラ
大地に向かって落ちてくる

白く、白く
周り中が白くなるまで
真っ白になるまで
白い世界になるまで
やまないで
雪、
やまないで……

詩・短歌・俳句

<p>北風に ゆれては落ちる 木々の雪</p>  <p>2年 伊藤まゆみ</p>	<p>冬空に 白い妖精 おどるかな</p>  <p>2年 川島 健一</p>	<p>尾根の雪 いつ落ちるか 眺めつつ</p>  <p>2年 伊藤久美子</p>	<p>降りつもる 時のたつのも 忘れて、舞う</p>  <p>2年 佐久間 朗</p>	
<p>俳句</p> <p>水鳥の流るゝまゝに春の川 越川せつ子</p> <p>父を抜く背丈となりて卒業す 越川 雪枝</p>		<p>初雪に 輝く野山 別世界</p>  <p>2年 伊藤 克幸</p>	<p>銀世界 朝日を浴びて 光りけり</p>  <p>2年 斉藤 恵美子</p>	<p>雪の中 かわいい足の あと見つけ</p>  <p>2年 須合 洋子</p>

生活こぼれ話
永久 齒

小二の長男にムシ歯の話をしていて、「お母さんたち大人の歯は、永久歯といって、もう生えかわらないのよ」と話してあげると長男、
「ぼくたち子供はB級歯だから、またはえてくるよね。」

- 鋤き返す春田の底も地の表
伊藤 定男
- 辛夷咲くや石多き庭陽色濃く
大木 雅静
- 落椿人住まぬ庭荒れ果てて
藤代 敏子
- 木の芽田楽母に習いしかくし味
鈴木 つね
- 雨はれて木瓜の朱の蕾ふくらみぬ
伊藤 幸枝
- 庭隅に雪残り居て淡紅梅
土屋 好
- 般若湯猫脚膳に木の芽合
岩田 慶雄